

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成25年6月
大津市（滋賀県）

全体総括

○計画期間；平成20年7月～平成25年3月（4年9月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市では、地域の特色あるまちづくりを進めることにより活性化の実現を目指すため、認定基本計画において基本理念及び基本的な方針のキーワードとなっている『琵琶湖』や『大津百町』という地域資源を生かした各種事業を実施してきた。

これら事業によって、琵琶湖湖岸では琵琶湖を一望できるオープンカフェ「なぎさのテラス」や地域物産品の販売とともに地域情報が集積する観光拠点「湖の駅」が整備され、集客の増加によるにぎわいが創出された。また、大津百町の舞台となるまちなかにおいては、地域関係者の協力のもと町家等の保存や町家風のまちなみと調和した建築物への改修が行われ、歴史情緒が感じられるまちなみ景観の保全とともにまちづくりに対する機運の高まりが見られるなど成果があがっている。

しかし、まちなかのにぎわいという点では、目標指標の歩行者・自転車通行量に増加が見られていないことから判断できるように、十分な成果を上げることができていない。まちのシンボル施設である旧大津公会堂のリニューアル事業が実施され市民交流の場としてにぎわいが創出されている一方で、周辺において計画されていた高い集客性を見込んでいた商業などの施設整備が実施に至らず、まちなかへの誘客と回遊にうまく結びついていないことが考えられる。まちなかへの誘客を促すために、来訪するためのまちの価値を高めていくことが今後の大きな課題の一つとなっている。

活性化の推進にあたっては、中心市街地活性化協議会において積極的に事業の企画・実施が行われたことから、地域を巻き込んだ取組みを通じて地域住民や関係者の活性化に対する認識は高い。大津百町の歴史資源を活用した取組みでは、旧町名の看板設置事業や登録有形文化財の登録支援など、協議会委員の発案とともに事業化に至っている。また、イルミネーション事業や既存施設活用事業などのソフト事業についても協議会委員のアイデアを取り入れ、内容の充実とともに連携を図った効果的な事業の実施を行っている。そして、これらの動きに連動し、大津100円商店街事業や滋賀B級グルメバトル in サマーフェスタなど商店街や地域団体が主体となったイベントが数多く実施されるようになり、県内のみならず、京都や大阪など広域的なエリアからの集客を促し、普段人通りが少ない商店街にも多くの人々が来訪するなど、にぎわいの創出と魅力の発信に大きく貢献している。

本計画の終了を迎え、活性化の実現という部分では十分ではなく、また課題も多く見られる中ではあるが、確実に活性化に向けた動きは活発化しており、地域と行政が一体となった取組みとして、次のステップに繋がる成果を積み上げることができたと考える。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した
- ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

事業実施状況としては、全49事業のうち、実施済み16事業、実施中20事業、未実施13事業と着手率としては73%であり、計画の進捗として順調であったとはいえない。特に、まちなかで実施する民間事業に未実施が多く、上述のとおり、まちなかへの誘客を促し切れていないことが課題として残った。しかし、琵琶湖湖岸における拠点施設整備による湖岸の観光客数の増加という定量的な成果とともに、町家等の歴史資源を活用した事業や地域主体のソフト事業の実施によって、地域のまちづくりに対する関心の高まりと活動の活発化が見られることなどからも活性化が図られたものと判断している。

3. 活性化が図られた要因(大津市としての見解)

まず、大きな要因であると考えられることは、本計画策定以前からまちづくり活動が始まっていたことである。本中心市街地区域は、平成15年にまちなかの拠点施設から商業テナントが撤退を表明し、まちの衰退が懸念された。それをきっかけとして、行政と地域が一緒になり、まちの問題点を考え、解決に向けた取組みがスタートしている。そこで活動をともにした住民や団体などとの良好な関係が構築されていたことが、本計画を円滑に推進していくうえで重要なポイントとなっている。

次に本計画は、琵琶湖と大津百町という地域にとって、認識が深く、理解し易い資源を活用したまちづくりを進めたが、この2点の資源の活用方策については、計画策定以前から検討され、いろいろなアイデアが蓄積されていた。特に、大津百町については、平成17年度から地域を交え、町家の保存・活用とともにまちなみの保全を目的として議論が行われ、本計画において事業として位置づけている「まちなみ整備(町家の修景整備事業)」や「町家じょうほうかん運営整備事業」の骨格が出来上がっていた。また、旧大津公会堂についても老朽化により解体案が出された平成16年に地域からの保存と活用の要望をきっかけとして、平成18年に利活用計画が策定され本計画に反映されている。

そして本計画の事業実施段階にあつては、上記の積み重ねがあり、「なぎさのテラス」、「旧大津公会堂」というリーディングプロジェクトを順調に実施でき、そのことによって活性化に対する地域の関心を高め、計画の推進に勢いをつけたと考える。その後においては、中心市街地活性化協議会が果たした役割が大きく、活性化を地域の問題として捉え、専門プロジェクトチームを設置し地域を巻き込んだ取組みを企画し実行してきた。

このように、認定計画を策定する段階で事業構想をスタートするのではなく、今までのストックを具体化し実行するというスムーズな展開を図れたことと、また実行にあたっての地域の協力体制が整っていたことから、本計画の円滑で効果的な事業実施に繋がり、結果として活性化の効果を生み出したものと考えられる。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組みをふり返ってみて(協議会としての意見)

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

当協議会としては、地域が主体となって取組みを進めていく必要性を認識し、活性化を目指した活動を行ってきた。認定基本計画の進捗管理という面からは、約7割の事業が着手でき、その多くの事業が当協議会において議論され、効果的な実施に繋がったものと考えている。特に、琵琶湖湖岸に整備した「なぎさのテラス」は、地域資源を最大限に生かした大津市ならではの施設として非常に大きなにぎわいをもたらし、活性化に貢献できたものと考えている。また、町家といった大津百町の資源を活用した取組みにも注力し、専門プロジェクトチームを設置し集中的な事業展開を行い、まちの魅力を発信できたものと思う。しかし、約3割の事業が未実施となっており、当協議会において十分な対応が行えたとは言えない。湖岸からまちなかへの来訪者の回遊を目指すうえで、重要な事業が実施できなかったことは、当協議会としても課題として認識し改善を図っていく。

当協議会は、行政をはじめ多くの関係者の方々の多大なるご尽力とご協力によって支えられており、その方々の思いに応えるためにも、一層の連携を図り、更なる活性化に向けて努力をしていく所存であります。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

大津市まちづくりに関する市民意識調査(平成24年5月)及び大津市中心市街地活性化についてのアンケート(平成24年10月)から、市民の評価としては、若干の活性化が図られたものと判断する。理由としては、以下のとおり。

[市民意識調査]

- 愛着度、住み心地とも市内の区域の中でもっとも高い。
- 中心市街地活性化に対する取組みの満足度が低い。ただ、重要性についても高いと認識されており、取組みを進めていくことが求められている。

[中心市街地のアンケート]

- 基本計画に掲げる3つの方針の達成状況を評価する設問を行い、「大津駅前・湖岸を結ぶまちづくり」以外の項目において「成果とともに課題もある」の割合が多く、成果があるとの評価を一定いただけているものとする。

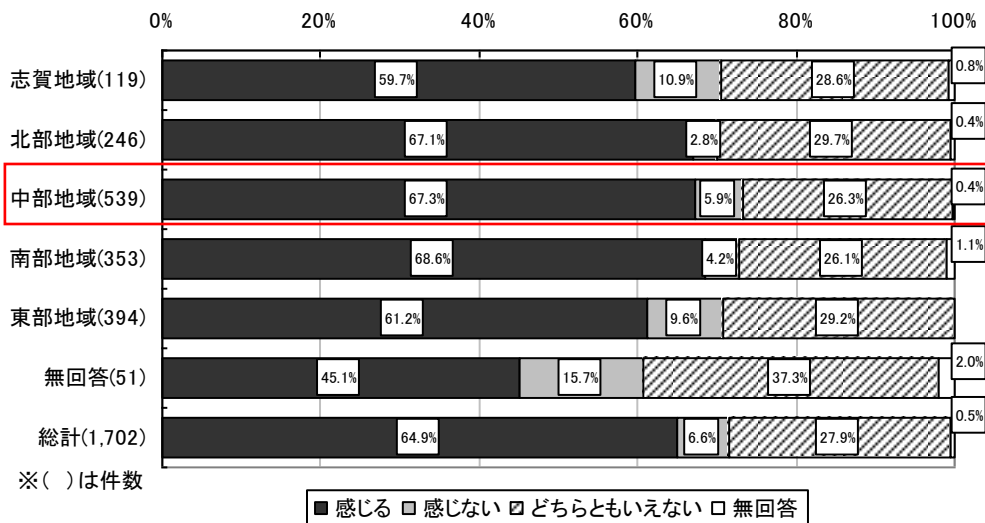
大津市まちづくりに関する市民意識調査 [平成 24 年度]

<調査の概要>

- ・ 調査の対象及び人数：住民基本台帳から無作為に抽出し、18 歳以上の市民 3,000 人を対象
- ・ 調査方法：郵送により、調査票の配布回収
- ・ 調査期間：平成 24 年 5 月 11 日～平成 24 年 5 月 25 日
- ・ 回収状況：配布数 3,000 回収数 1,703 件 回収率 56.8%
- ・ その他：統計データの地域区分において中心市街地（長等、逢坂、中央）は「中部地域」に属する。

●大津市への愛着度

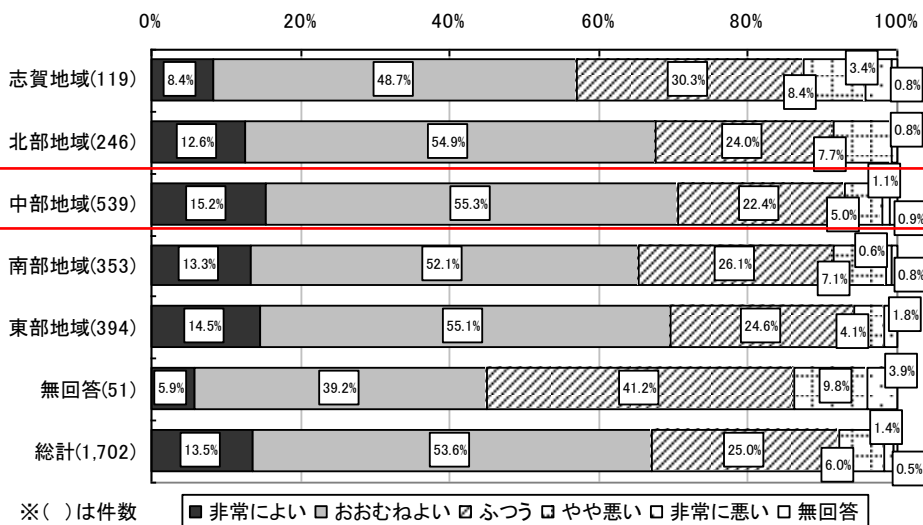
○平成 18 年度調査時に比べると下がるものの、約 67%の人が愛着を感じている。



※参考：平成 18 年度大津市総合計画策定に向けての市民調査においては、「感じる」が 75.5%

●大津市の住み心地

○平成 18 年度調査時に比べ、「非常によい」、「おおむねよい」の割合があがっている。

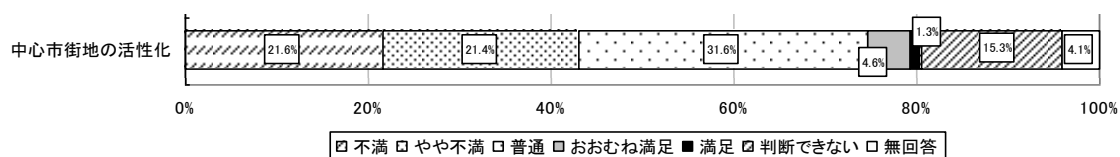


※参考：平成 18 年度大津市総合計画策定に向けての市民調査においては、「非常によい」、「おおむねよい」の割合は 47.8%

■ [中心市街地の活性化] の満足度・重要度

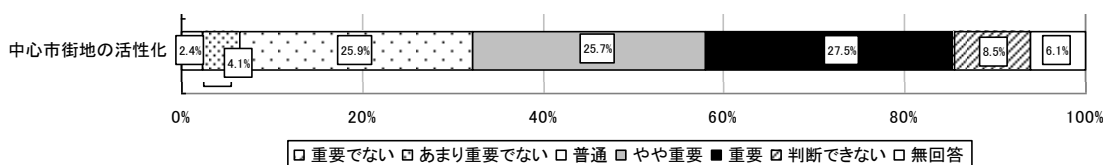
満足度

・「不満」、「やや不満」が 43.0%



重要度

・「重要」、「やや重要」が 53.2%



大津市の取組みに対する改善指数の把握

実施している取組みについて、重要度が高いにも関わらず、現状の満足度が低く、今後優先して取り組まなければならない取組みの相対的なニーズを改善指数として算出して把握する。

全取組み数 103 のうち、中心市街地の活性化が優先して取り組んでいくことが求められる取組みの 4 番目にあげられている。

順位	【分野・取組み】	取組みの概要	改善指数
1	VI 2	身近な道路や歩道の整備	15.1
2	VII 13	不法投棄防止の監視や指導	15.0
3	I 8	児童虐待の早期発見、早期対応	14.8
4	VI 17	中心市街地の活性化	14.3
5	III 8	地震や浸水及び台風などの自然災害対策	14.2
6	III 14	交通安全対策	14.2
7	VI 5	徒歩・自転車での移動の便利さ	14.2
8	VI 7	バスでの移動の便利さ	14.1
9	I 7	多様な保育サービスの提供	13.8
10	VII 1	琵琶湖とその生態系の保全	13.8
11	III 10	防災行政無線、防災情報システムの整備	13.7
12	VI 4	駅周辺施設の利用しやすさ	13.7
13	II 1	学校教育の内容・水準	13.5
14	III 7	公共・民間施設の耐震化の促進	13.5
15	VII 2	地球温暖化対策	13.5
16	I 13	介護サービスの充実や介護施設の整備	13.4
17	I 6	保育園の整備、児童クラブの施設拡充	13.4
18	VII 3	森林保全活動の推進	13.3
19	VIII 7	行財政改革の推進	13.3
20	VI 1	公共施設や交通機関のバリアフリー化	13.1
21	V 5	商店街への支援	13.0
22	I 14	認知症高齢者への支援	13.0
23	III 1	医療機関の分布や救急医療体制	13.0
24	VII 4	水環境の再生	13.0
25	I 9	子育てに悩む親や子どものための教育相談体制	13.0
26	VIII 5	市民・市民団体、事業者の要望に対する市の対応	12.9
27	VI 3	公共駐車場の利用しやすさ	12.8
28	V 2	観光情報の発信力の強化	12.8
29	VII 7	大気汚染や騒音等の対策	12.8
30	I 15	障害者の就労・社会参加の促進	12.8

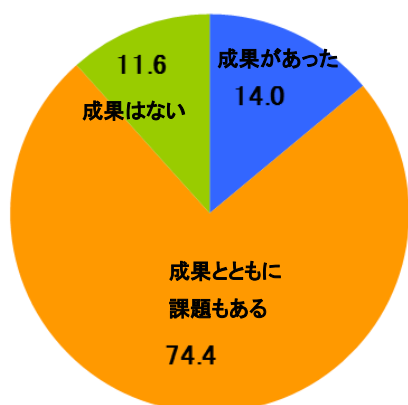
大津市中心市街地に関するアンケート

<調査の概要>

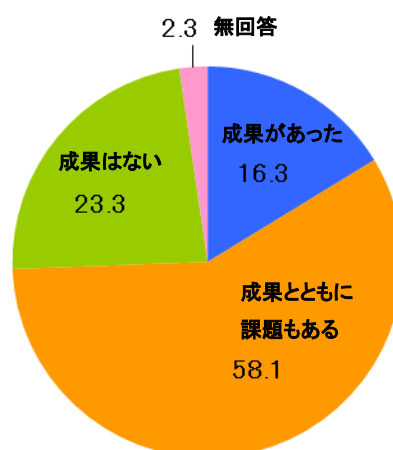
- ・ 調査の対象及び人数：
中心市街地活性化フォーラム～街なか元気！第二ステージへ～の参加者 60 名を対象（有効数 43）
- ・ 調査方法：会場にてアンケート配布し回収
- ・ 調査期間：平成 24 年 10 月 30 日

○これまでの中心市街地活性化の取組みについて、どのようにお考えですか。（単位：％）

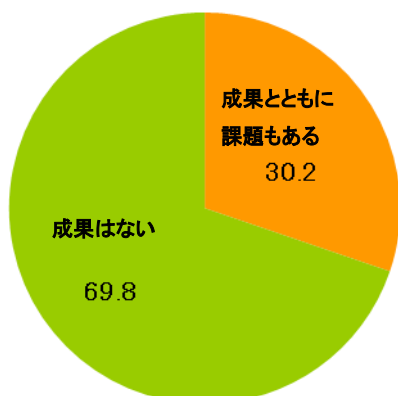
■琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくり



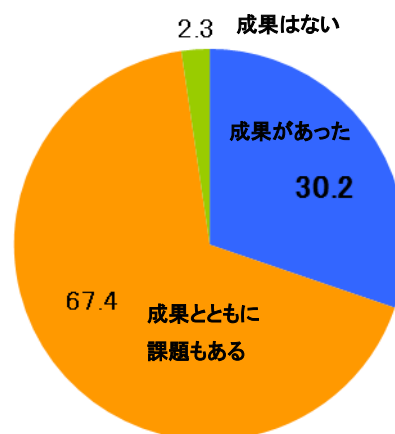
■大津百町の歴史・文化を生かすまちづくり



■大津駅前・湖岸を結ぶまちづくり



■イベントなどまちなかおもてなしの取組み



6. 今後の取組み

本計画の推進によって、観光客の増加や地域のまちづくりの機運の高まりなど、一定の成果が示せている。しかし、まちなかのにぎわいが回復するまでには至っておらず、活性化の成果としては十分でない。そのような中、地域活動が活発化しており、今後はその流れを増幅させていくことでまちなかのにぎわい回復に繋がっていくものと考えられる。そうしたことから、活性化に向けた集中的かつ一体的な取組みを継続していくことが必要であるとの認識のもと、平成24年度に第2期計画の策定を進め、平成25年3月29日に内閣総理大臣の認定を受けたところである。

第2期計画では、まちの目指すべき方向性は変わらないことから、基本的な方針は第1期計画を継承し、琵琶湖と大津百町の地域資源を活用した44事業を展開していく。第2期計画を推進していくにあたり、まずは新たな民間団体が活動を開始しており、これら団体を協議会へ参画を促すとともに、円滑で効果的な事業実施に向けて事業者間調整が図れるよう推進体制の再構築を行う。そのうえで、第1期計画の課題である、まちなかの魅力を高め誘客を促すために、旧東海道周辺を基点として旧東海道修景整備事業や町家等活用事業等を集中的に実施し、併せて民間主導の回遊性を高めるソフト事業を実施していく。加えて、まちの魅力の創出とともにその魅力を持続的なものとするためには地域住民や商業者の生活の充実度を高めることが重要であるとの観点から、にぎわいと交流を生み出し、生活の質の向上と地域活動を活発化させる拠点となる商業店舗の増加を図る事業についても重点的に実施していく。なお、このことについては、第2期計画において新たな目標指標として「商店街における新規商業店舗数」を設定し事業効果の把握を行っていく。また、琵琶湖湖岸においては、第1期計画で整備した施設をはじめとする拠点間が連携したソフト事業を実施し、湖岸エリア全体のにぎわいと回遊性を生み出す。そして、これらの事業展開によって、湖岸とまちなかの相互の行き来を創りだし、中心市街地全体ににぎわいを波及させていく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
駅・港を結ぶ動線 リニューアルによる にぎわい創出	休日の歩行者・ 自転車通行量	8,742 (人)	12,700	9,178	H25.3	<u>b</u>
琵琶湖湖岸・港に おける集客交流 機能の強化	琵琶湖観光客入 込数	1,338 (千人)	1,600	1,501	H25.6	B

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

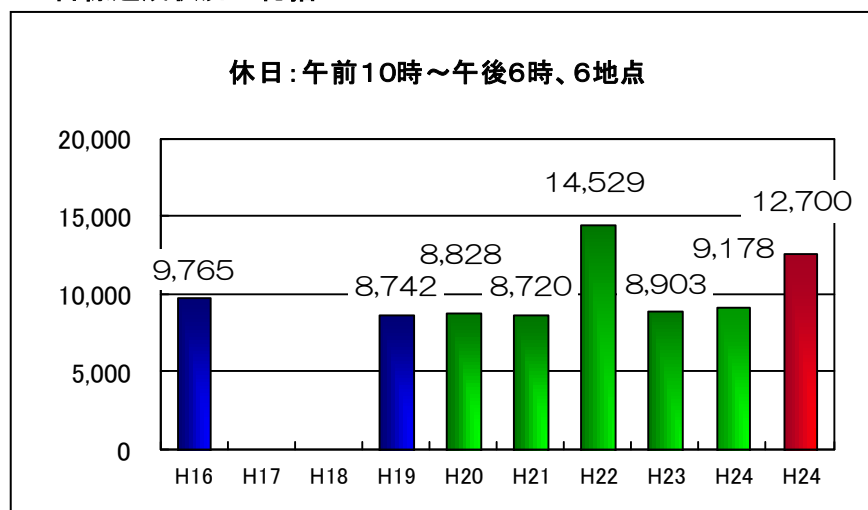
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「駅・港を結ぶ動線リニューアルによるにぎわいの創出」

「休日の歩行者、自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P57～P66 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位：人)
H19	8,742 (基準年値)
H20	8,828
H21	8,720
H22	14,529
H23	8,903
H24	9,178
H24	12,700 (目標)

※調査方法；歩行者通行量調査

※調査月；平成24年10～平成25年3月に実施

※調査主体；大津市

※調査対象；歩行者、自転車のみ、休日の午前10時～午後6時、6地点

※その他；数値なし年度はデータなし

【総括】

本目標指標については、目標値12,700人に対して、平成24年度実績で9,178人となっており、目標達成には至らなかった。

要因としては、誘客性を高く見込んでいた大津駅前商店街（寺町通り）再生事業、町家等活用事業、文化伝承サロン設置事業などの商業・交流機能を整備する事業が未実施となっていることがあげられる。未実施となっていることについては、経済情勢の影響などがあるが、事業実施に向けた合意形成が整わなかったことや町家等を活用した事業にあたっては、空き町家の情報把握、所有者との交渉、活用へのつなぎといった事業実施過程における諸問題を事業主体に解決を任せ、中心市街地活性化協議会としてフォローする体制が十分でなかったことも反省すべき点である。また、目標達成に寄与する事業の実施状況において、通行量の実績値としては目標値を達成している事業も多いが、その結果と通行量の数値に整合が見られない。これは、来訪者が各施設に自動車で訪れ、施設利用後にまちなかへの回遊が促されておらず、通行量の増加に繋がっていないことが考えられる。

以上のことから、通行量の増加にあたっては、来たいと思わせるまちの魅力を高める事業を着実に実施するとともに、その存在を伝え、適切に誘導を促していくことが重要である。第2期計画ではその課題を念頭に置き、事業展開を図っていくことが必要である。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 旧大津公会堂（社会教育会館）テナントミックス施設整備事業（㈱まちづくり大津）

支援措置名及び支援期間	支援措置名:戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 支援期間:平成 21 年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成 21 年度 完了時期:平成 22 年度
事業概要	昭和9年に建築された歴史的価値の高い建築物の改修を行い、まちなかと琵琶湖を結ぶ拠点施設として再生する。本事業は、本建築物の地下1階及び1階を4つの飲食店舗として整備するものである。
目標値・最新値	目標値:680 人、最新値:370 人 ※数値は、②地域コミュニティー施設(既存建築物活用事業)の目標値及び最新値を合わせたもの
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	交流施設(会議室、ホール)の1回あたりの利用者数が想定より少なく、結果、利用総数も想定を下回ったため。
計画終了後の状況（事業効果）	風格ある歴史的建造物を生かした個性ある4つの店舗を目的に来訪者の増加とともに賑わいの創出に貢献している。
当該事業の今後について	実施済み

②. 地域コミュニティー施設（既存建築物活用事業）（大津市）

支援措置名及び支援期間	支援措置名:まちづくり交付金 支援期間:平成 20 年度～平成 21 年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成 20 年度 完了時期:平成 21 年度
事業概要	昭和9年に建築された歴史的価値の高い建築物の改修を行い、まちなかと琵琶湖を結ぶ拠点施設として再生する。本事業は、建物の外観を修景し、耐震補強を行うと共に2階及び3階を集客交流・まちづくり拠点として整備するものである。
目標値・最新値	目標値:680 人、最新値:370 人 ※数値は、①旧大津公会堂(社会教育会館)テナントミックス施設整備事業の目標値及び最新値を合わせたもの
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	交流施設(会議室、ホール)の1回あたりの利用者数が想定より少なく、結果、利用総数も想定を下回ったため。
計画終了後の状況（事業効果）	ホール、多目的室などの貸室を利用してコンサート、個展等が開催され、多くの市民が集まり、交流の場として賑わいを創出している。
当該事業の今後について	実施済み

③. 琵琶湖湖畔活用エコツーリズム事業（琵琶湖汽船株）

支援措置名及び 支援期間	支援措置名:戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金 支援期間:平成 21 年度
事業開始・完了 時期	事業開始:平成 21 年度 完了時期:平成 21 年度
事業概要	琵琶湖観光の拠点施設として「湖の駅」を整備し、観光情報の発信と併せて地元農産品・加工品及び物産の販売、飲食の提供を行い、集客とにぎわいを創出する。
目標値・最新値	目標値:200 人、最新値:510 人
達成状況	達成
達成した（出来 なかった）理由	整備施設（湖の駅）が、琵琶湖湖上観光施設や公共駐車場、鉄道主要駅に近接した利便性が高い位置に立地していることに加え、大津や琵琶湖の特産品等をまとめた品揃えで提供できており、観光客を中心に当初見込み値を上回る集客があった。
計画終了後の状 況（事業効果）	地元食品の販売及び飲食、また地域観光情報を知ることができることから、観光客をはじめ地元市民も多数訪れておりまちなかへの回遊性の向上に寄与している。
当該事業の今後 について	実施済み

④. 民間人材研修センター整備事業（滋賀銀行）

支援措置名及び 支援期間	支援措置名:なし 支援期間:なし
事業開始・完了 時期	事業開始:平成 19 年度 完了時期:平成 19 年度
事業概要	中心市街地外に立地していた民間企業の研修施設を中心市街地に移転する。
目標値・最新値	目標値:80 人、最新値:80 人 ※開催1回あたりの平均値
達成状況	達成
達成した（出来 なかった）理由	定期的に研修等を実施している。
計画終了後の状 況（事業効果）	研修対象者等が各地から来訪する機会が生まれており、にぎわいの創出に寄与している。
当該事業の今後 について	実施済み

⑤. 再開発ビルの改修・活用事業（地域創造支援事業）（大津市）

支援措置名及び 支援期間	支援措置名:まちづくり交付金 支援期間:平成 17 年度～平成 21 年度
-----------------	--

事業開始・完了時期	事業開始:平成 17 年度 完了時期:平成 21 年度
事業概要	子育て、健康、交流の拠点機能を備えた中核的施設として、適正な運営を行うとともに他関係機関との連携を図った事業を実施する。
目標値・最新値	目標値:600 人、最新値:1,020 人 ※数値は、⑥既存施設活用事業(地域創造支援事業)及び⑦市民会館リニューアル活用事業の目標値及び最新値を合わせたもの
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当施設における効果的な事業の実施と合わせて、周辺施設において実施する事業の情報を一体的に発信するなど連携した取組みによって、当初見込み値を超える集客があったものとする。
計画終了後の状況(事業効果)	市民生活施設として多くの方に利用され、にぎわいの創出とともに、近隣施設との連携したイベントの実施により回遊性の向上に寄与している。
当該事業の今後について	施設改修自体は完了している。また、事業期間としても終了しているが、今後も市民にとって魅力ある施設となるよう、適正な運営に努め、集客の維持、増加を図っていく。

⑥. 既存施設活用事業(地域創造支援事業)(運営協議会)

支援措置名及び支援期間	支援措置名:社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 支援期間:平成 22 年度～平成 24 年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成 22 年度 完了時期:【実施中】
事業概要	文化・芸術をテーマとして関係施設が連携し一体的な取組みを実施することによって、集客の増加とにぎわいを創出する。
目標値・最新値	目標値:600 人/日、最新値:1,020 人 ※数値は、⑤再開発ビルの改修・活用事業(地域創造支援事業)及び⑦市民会館リニューアル活用事業の目標値及び最新値を合わせたもの
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	周辺施設において実施する事業の情報を一体的に発信するなど連携した取組みによって、当初見込み値を超える集客があったものとする。
計画終了後の状況(事業効果)	イベントカレンダーによる一体的な情報発信とともに、琵琶湖湖岸を舞台として共同でコンサート等催しを開催するなど連携した取組みを行い、まちの賑わいと回遊性の向上に寄与している。
当該事業の今後について	第2期計画においても活性化事業として継続実施していく。

⑦. 市民会館リニューアル活用事業(市民会館)

支援措置名及び支援期間	支援措置名:なし 支援期間:なし
-------------	---------------------

事業開始・完了時期	事業開始:平成 18 年度 完了時期:平成 21 年度
事業概要	市民会館のリニューアルに伴い、新たなソフト事業を展開することにより、琵琶湖湖岸周辺への集客を図る。
目標値・最新値	目標値:600 人、最新値:1,020 人 ※数値は、⑤再開発ビルの改修・活用事業(地域創造支援事業)及び⑥既存施設活用事業(地域創造支援事業)の目標値及び最新値を合わせたもの
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当施設における効果的な事業の実施と合わせて、周辺施設において実施する事業の情報を一体的に発信するなど連携した取組みによって、当初見込み値を超える集客があったものとする。
計画終了後の状況(事業効果)	他施設と連携を図りながら演劇やゴスペルコンサートをはじめ多数のイベントを開催することにより琵琶湖湖岸周辺への集客増に寄与している。
当該事業の今後について	施設改修自体は完了している。また、事業期間としても終了しているが、今後も市民にとって魅力ある施設となるよう、適正な運営に努め、集客の維持、増加を図っていく。

⑧. まちなか交流館整備運営事業(まちなか交流館ゆうゆうかん)

支援措置名及び支援期間	支援措置名:なし 支援期間:なし
事業開始・完了時期	事業開始:平成 18 年度 完了時期:【実施中】
事業概要	商業体験スペースにおけるチャレンジショップ等の商業振興や幅広い年代が交流し集えるコミュニティーホールを活用したイベント等を実施する。
目標値・最新値	目標値:220 人、最新値:230 人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	当施設における効果的な事業の実施と合わせて、周辺施設と連携した取組みによって、当初見込み値を超える集客があったものとする。
計画終了後の状況(事業効果)	チャレンジショップの実施やコンサート、むかしあそび、科学体験イベントなど世代間の交流が図られるイベントの開催により、まちなかの拠点となるとともににぎわいを創出している
当該事業の今後について	第2期計画においても活性化事業として継続実施していく。

⑨. 大津駅前商店街(寺町通り)再生事業(大津駅前商店街振興組合)

支援措置名及び支援期間	支援措置名:中小小売商業等高度化事業に係る特定民間中心市街地活性化事業計画の経済産業省大臣認定 支援期間:平成 23 年度～
-------------	---

事業開始・完了時期	【未実施】
事業概要	京都の玄関口としてふさわしい町並み整備として、寺町通りの建物ファサード整備、テナントミックスによる活性化事業を実施する。
目標値・最新値	目標値:800人、最新値:0人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業者において合意形成が整わず未実施となったため
計画終了後の状況（事業効果）	—
当該事業の今後について	第2期計画においても活性化事業と位置づけている。事業者において新たな計画を検討し事業化を目指す。

⑩. 町家等活用事業（㈱まちづくり大津）

支援措置名及び支援期間	支援措置名:なし 支援期間:なし
事業開始・完了時期	【未実施】
事業概要	町家等を改修し、魅力ある商業施設を整備することで大津らしいまちなみの形成とともににぎわいを創出する。
目標値・最新値	目標値:1,200人、最新値:0人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	町家所有者との調整が整わず未実施となったため
計画終了後の状況（事業効果）	—
当該事業の今後について	第2期計画においても活性化事業と位置づけており、引き続き町家所有者と調整を進め事業化を目指す。

⑪. 文化伝承サロン設置事業（㈱まちづくり大津）

支援措置名及び支援期間	支援措置名:なし 支援期間:なし
事業開始・完了時期	【未実施】
事業概要	空き町家等を活用して、地域の文化を次世代へ伝承できる場所を設置し、地域の文化伝承拠点とする。
目標値・最新値	目標値:160人、最新値:0人
達成状況	未達成
達成した（出来	町家所有者との調整が整わず未実施となったため

なかった)理由	
計画終了後の状況(事業効果)	—
当該事業の今後について	事業化の目途がないことから、現時点においては第2期計画の事業としては組込まない。今後、町家の確保に努め事業化の目途がたった段階で、第2期計画に組込むこととする。

⑫. 町家キャンパスの整備運営事業(龍谷大学)

支援措置名及び支援期間	支援措置名:現代的教育ニーズ取組支援プログラム 支援期間:平成19年度～平成21年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成19年度 完了時期:平成21年度
事業概要	町家を大学のキャンパス(名称:龍龍(ロンロン))として活用する。学生らが歴史資源に直にふれることで、町家の魅力を感じ、広く波及させていく。
目標値・最新値	目標値:60人、最新値:60人 ※開催1回あたりの平均値
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	定期的にキャンパスを活用した取組みを行っている。
計画終了後の状況(事業効果)	町家体験学習や飲食店情報誌の作成、大津百町市の運営協力の活動を行い、地域活性化に貢献している。また、地域住民を対象とした講座が開かれるなど地域活動拠点として活用されている。
当該事業の今後について	施設改修自体は完了している。また、事業期間としても終了しているが、今後も市民にとって魅力ある施設となるよう、適正な運営に努め、集客の維持、増加を図っていく。

⑬. 大津まちなか食ウォーク(実行委員会)

支援措置名及び支援期間	支援措置名:なし 支援期間:なし
事業開始・完了時期	事業開始:平成19年度 完了時期:【実施中】
事業概要	まちなかに受け継がれる食文化を感じてもらい、魅力を知ってもらうため、商店街で食べ歩きイベントを実施する。
目標値・最新値	目標値:260人、実績値:140人 ※開催1回あたりの平均値 ※数値は、⑭びわ湖まちなかエコキッズ(地方の元気再生事業)の目標値及び最新値を合わせたもの
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	事業の実施にあたり、内容の充実等を図るため、参加者数を当初予定より減らして実施したことによって数値が下回っている。
計画終了後の状況	商店街の食べ歩きを通じて、商店街の魅力を知ってもらい、以後の来訪と

況（事業効果）	ともに商店にとっては新たな顧客の獲得に繋がっている。
当該事業の今後について	第1期計画で事業を終了する。商店街の事業については、大津 100 円商店街事業に移行し第2期計画で実施していく。

⑭. びわ湖まちなかエコキッズ（地方の元気再生事業）（NPO法人浜大津観光協会）

支援措置名及び支援期間	支援措置名:地方の元気再生事業 支援期間:平成 21 年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成 21 年度 完了時期:【実施中】
事業概要	琵琶湖とまちなかの歴史・文化を生かした子ども向け体験ツアーであり、これまで別々の方法で集客していた琵琶湖とまちなかをひとつの体験ツアーとして提供することで、大津らしい集客の仕組みを構築し、地元密着型の新たなビジネスモデルとすると共に、修学旅行や親子連れなど新たな層の集客を図る。
目標値・最新値	目標値:260 人、最新値:140 人 ※開催1回あたりの平均値 ※数値は、⑬大津まちなか食ウォークの目標値及び最新値を合わせたもの
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	事業の実施にあたり、内容の充実等を図るため、参加者数を当初予定より減らして実施したことによって数値が下回っている。
計画終了後の状況（事業効果）	湖上とまちなかの歴史・文化を体験できるツアーの実施により、まちの魅力を知ってもらえたことで、以後の来訪に繋がっている。
当該事業の今後について	第2期計画へ組み入れはしないものの、事業としては継続していく。より魅力あるツアーを企画し、少しでも多くの来訪者にまちの魅力を伝えていく。

3.今後について

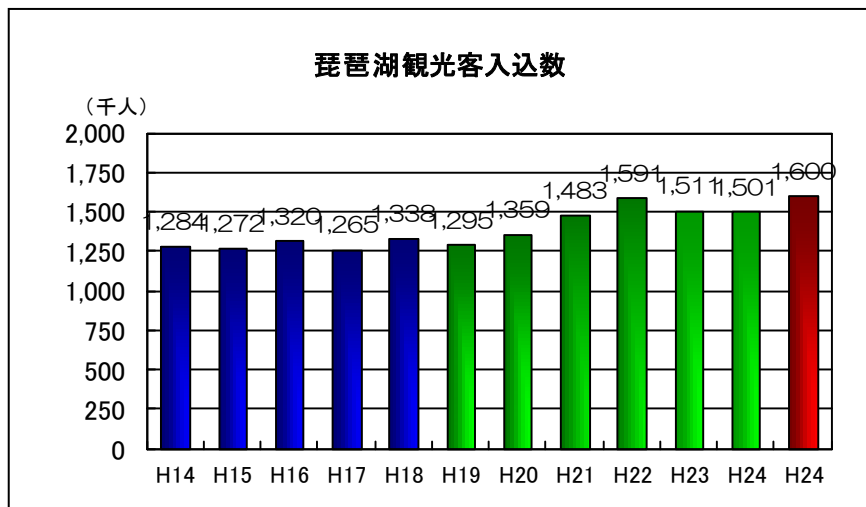
通行量の増加を目指すためには、来訪を促す「まちの魅力」を高めるとともに来訪者を適切に誘導・案内する効果的な事業展開を図っていくことが求められる。そこで、第2期計画では、旧東海道周辺をまちなかの基点として旧東海道修景整備事業及び町家等活用事業、県庁周辺県有地活用事業等を集中的に実施し、動線ルートの構築と拠点施設の整備を行う。また、空き店舗再生支援事業や町家じょうほうかん運営事業等によって、にぎわいと交流の拠点となる商業店舗の増加を図るとともに町家の修景整備事業を継続しまちなみ保全を促進していくことでまちの魅力の向上を図る。そして、まちなかへの誘導にあたっては、歴史・文化・観光サイン設置事業及び旧大津公会堂・情報発信室活用事業によるハード・ソフト両面から情報の提供と発信を行っていく。加えて、まちなかガイド事業や大津 100 円商店街事業など民間主導の回遊性を高めるソフト事業を実施することで誘導を補完していく。これらの事業の実施によって、来訪者が行き交いにぎわいが実感できるまちを目指していく。

個別目標

目標「琵琶湖湖岸・港における集客・交流機能の強化」

「琵琶湖観光客入込数」※目標設定の考え方基本計画 P71～P75 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位：千人)
H18	1,338 (基準年値)
H19	1,295
H20	1,359
H21	1,483
H22	1,591
H23	1,511
H24	1,501
H24	1,600 (目標値)

※調査方法；滋賀県観光入込客統計調査（毎年度 3 月実施）

※調査月；平成 25 年 3 月末時点調査、平成 25 年 9 月頃公表

※調査主体；滋賀県、大津市

※調査対象；大津港、明日都浜大津、琵琶湖ホテル、琵琶湖ホール、浜大津アーカスに新たに事業追加した施設等の入込み客数

【総括】

本目標指標については、目標値 1,600 千人に対して、平成 24 年度実績で 1,501 千人であり、目標値に近い数値となっている。1 期計画に取り組んだ年以降は、それまでと比べ観光客が増加しており、また平成 22 年度に 1,591 千人と目標値に限りなく近づいたことを踏まえると、活性化の取り組みは一定の効果を示せたと考える。

要因としては、計画していた「なぎさのテラス」、「湖の駅」の施設整備が順調に実施され、また市民ニーズに合致し高い評価を受け計画を上回る集客があったことから、琵琶湖観光客入込数は大きく増加した。しかし、一部の既存施設において、観光客数が減少したことによって目標の達成には至っていない。このように、観光客数の増加は見られるものの、にぎわいが一部に留まっており、本質的な活性化の実現には至っていないと考えられる。

以上のことから、第 2 期計画では、大津港を有し琵琶湖観光の玄関口であるとともに良好な自然景観と環境に恵まれた立地特性を生かし、既存施設を含む琵琶湖湖岸全体に人が集い、交流を生み出す施策を展開していくことが求められる。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. なぎさ公園テナントミックス施設整備事業（㈱まちづくり大津）

支援措置名及び 支援期間	支援措置名:戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金 支援期間:平成 20 年度
事業開始・完了 時期	事業開始:平成 20 年度 完了時期:平成 21 年度

事業概要	琵琶湖湖岸の景観を生かし、公園と商業施設を一体的に行い整備し、湖岸ににぎわいを創出する。本事業は、商業施設部分の整備であり、魅力的な4つの飲食店舗の整備を行うもの。
目標値・最新値	目標値:70,000人、最新値:128,000人 ※数値は、②湖岸公園の活用(地域創造支援事業)の計画値及び最新値を合わせたもの
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	琵琶湖の景観を生かし、市民ニーズに挙げられている「大津らしさ」を打出した独自性のある施設整備が高い評価を受けたためと考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	安定した集客を維持しており、大きな賑わいとともを発信拠点として定着を見せている。
当該事業の今後について	実施済み

②. 湖岸公園の活用(地域創造支援事業)(大津市)

支援措置名及び支援期間	支援措置名:まちづくり交付金 支援期間:平成20年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成20年度 完了時期:平成20年度
事業概要	琵琶湖湖岸の景観を生かし、公園と商業施設を一体的に行い整備し、湖岸ににぎわいを創出する。本事業は、公園施設の整備であり、景観に調和した癒し空間を構築する。
目標値・最新値	目標値:70,000人、最新値:128,000人 ※数値は、①旧大津公会堂(社会教育会館)テナントミックス施設整備事業の目標値及び最新値を合わせたもの
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	同時に整備したオープンカフェと調和した一体的な施設整備が高い評価を受けたためと考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	商業施設と併せた利用により多数の集客があり、散策コース、憩いの場として利用されるとともに琵琶湖湖岸の新たな拠点として定着している。
当該事業の今後について	実施済み

③. イルミネーション事業(実行委員会)

支援措置名及び支援期間	支援措置名:まちづくり交付金 支援期間:平成20年度～平成24年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成20年度 完了時期:【実施中】

事業概要	まちなかでイルミネーション等イベント事業を実施し、来訪者をおもてなしするとともに集客を図り、併せて回遊性の向上を狙う。
目標値・最新値	目標値:100,000人、最新値:63,000人
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	イベントの情報発信の方策を含め、企画内容が当初見込み値の集客を促すまでの効果を発現できなかったため
計画終了後の状況（事業効果）	集客の増加と回遊性向上に寄与するとともに、灯りの制作を通じて地域ネットワークの強化に繋がっている。
当該事業の今後について	第2期計画においても活性化事業として継続実施していく。集客数が目標に達していないことから、今後はイルミネーションの設置場所を集中し質を高めるとともに、市民参加型の要素を取り入れた内容に充実を図り、目標の達成を目指す。

④. 琵琶湖湖畔活用エコツーリズム事業（琵琶湖汽船株）

支援措置名及び支援期間	支援措置名:戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金 支援期間:平成21年度
事業開始・完了時期	事業開始:平成21年度 完了時期:平成21年度
事業概要	琵琶湖観光の拠点施設として「湖の駅」を整備し、観光情報の発信と併せて地元農産品・加工品及び物産の販売、飲食の提供を行い、集客とにぎわいを創出する。
目標値・最新値	目標値:60,000人、最新値:91,000人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	整備施設（湖の駅）が、琵琶湖湖上観光施設や公共駐車場、鉄道主要駅に近接した利便性が高い位置に立地していることに加え、大津や琵琶湖の特産品等をまとめた品揃えで提供できており、観光客を中心に当初見込み値を上回る集客があった。
計画終了後の状況（事業効果）	地元食品の販売及び飲食、また地域観光情報を知ることができることから、観光客をはじめ地元市民も多数訪れておりまちなかへの回遊性の向上に寄与している。
当該事業の今後について	実施済み

3. 今後について

観光客を増加させるためには、一部施設に留まっているにぎわいを琵琶湖湖岸全体に波及させていくことが求められる。そこで、第2期計画では、琵琶湖湖岸の公園、文化施設、観光施設、商業施設などにおいて、湖岸の魅力要素である「自然景観」・「環境」に「アート」・「文化」を加え、滋賀県の「美の滋賀」推進の取組みと連携を図りながら全体を「美」というワードで結びつけた芸術作品の展示や催しなどを行う湖岸エリア・アートプロジェクトを実施していく。また、湖岸公園における事業の連携実施とともに周辺施設において共通サービスを提供するなど、ソフト事業を中

心に事業展開を図り周辺施設間の回遊性の向上を図っていく。これら事業の実施によって、にぎわいが琵琶湖湖岸全体に波及し、観光客が集い、交流が行われるまちを目指していく。